

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲示し、意識づけするようにしています。	法人の理念「しあわせになる」を事業所の理念とし、利用者や家族、地域の人々、職員など、誰もが幸せになることを願って職員全員が共有し実践している。フロアの見やすい場所に大きな文字で掲示してあるので、利用者や来訪者にもすぐわかるようになっている。理念にそぐわない言動があれば定期会議で改善に向けて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々にすすんで挨拶をかわす様にしています。	自治会に加入し回覧版などを利用しつつ地区行事の情報などを得るようにしている。草刈りなど指定日の清掃活動には参加できないが、事前に周囲の草刈りやゴミ拾いなど、出来る利用者と一緒にやっている。日頃散歩などで近所の人と挨拶を交わし、敬老会に参加している利用者もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームを理解していただける様に、自治会の会議などで機会をつくっていく予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これから運営推進会議を計画していく予定です。	開所してから徐々に地区の役員の方、医療機関・消防署・警察・社会福祉協議会・自治センター等の関係者とのつながりができてきたので、運営推進会議開催に向けて準備を進めていく意向である。	ホームの運営を外部の人の目を通して見ていただき取り組み内容や課題について検討していただき、地域からの理解を得るための貴重な会議です。開催にむけて早急に取り組まれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、必要に応じて連絡を取りながら運営しています。	地区の行政機関である自治センター職員に事業所の運営や利用者に関することなどを日頃から相談している。介護認定更新申請は家族の依頼があれば代行することもあり、認定調査時は家族と一緒に同席し調査員に利用者の様子を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今後勉強会をひらき、拘束を行うことでどの様な影響があるか理解を深め、可能な限りなくしていく取り組みをしていく予定です。	身体拘束をしないケアについて重要事項説明書に記載し、契約時に本人や家族に説明している。職員の代表者が研修を受講し定期会議で他の職員に伝達研修している。日中玄関は開錠しており、職員は利用者の行動を制限することのないようにしている。転倒予防の目的で本人、家族の了承を得てセンサーマットを使用することがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後勉強会をひらき、虐待の種類や起こりうる要因など理解を深めていく予定です。		

グループホーム 沖

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について理解を深めるようにつとめています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安、疑問点などを聞き、理解納得を得られるよう意識しています。納得した上で利用していただける様に心がけています。		
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さん・ご家族からの意見、要望をスタッフ間で話し合い、運営に反映させています。	自分から意見や思いを表出できる利用者が半数以上おり、食事や外出などの希望を職員に伝えている。家族の来訪時や電話で、日頃の様子を話しながら意見や要望を聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内で定期会議を管理者主催で開催。その中で必要な事項を法人代表者に上げ、代表者はその内容について速やかに回答を送る。また随時、必要な報告は代表者に直接届く様にしている。	毎月末に定期会議を開催し、代表者からの伝達事項や利用者の変化、ケア方法について話し合っている。職員間での壁はなく何でも自由に意見を出し合える雰囲気であるという。職員からの要望や提案は管理者が代表者に伝え、運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の実績を賞与や昇給に反映させている。職場環境の整備については、随時職員からの報告を受け、改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等は任意で応募、参加するように促している。また資格取得に関しては法人からの補助制度を活用し、資質向上につとめるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特になし		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんの生活歴の把握に努め、ご本人の求めている事や不安を理解しようと工夫しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、希望に添える様に話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	空室がない時は他のサービス利用を紹介し、次に繋がるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人に出来る作業を一緒に行い、和やかに生活出来るよう工夫・声掛けに配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの生活の様子を伝え、ご本人と一緒に支えていかれるよう、協力関係が築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	外出時に馴染みの場所に寄ったり、友人の来所時にゆっくり話が出来よう、支援に努めています。	以前住んでいた自宅近所の方や昔の知人などの来訪がある。家族と一緒に馴染みの美容院に定期的に通ったり、お盆に外泊したり、墓参りに家族と行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士の席の検討や、皆で和やかに過ごせるよう、レクや声掛けに配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じてご本人・ご家族の経過をフォローし、相談や支援に努めていきたいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向に沿えるよう、声掛け・傾聴し、把握に努めています。ご家族からも情報を得るようにしています。	利用者一人ひとりの意向や思いを叶えようと職員は努力している。利用者やゆっくり話す時間をとるように心がけ、何でも言い合える関係ができており、月ごとの行事については利用者に希望を聞きながら計画している。言葉で思いや意向を表出できない利用者に対しては複数の選択肢を提案し、選びやすいような言葉がけをしている。また家族から以前好きだったことなどを聴き、思いを推測し支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・関係者などから、生活歴や、これまでのサービス利用歴を聞き、把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のBPチェックを行い、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてその都度話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めています。	本人や家族からの意向を聴き、定期会議でスタッフ間で意見を出し合い、計画作成担当者が作成している。3~6ヶ月で短期目標を見直し、会議で現状に即しているかを担当者や他の職員に確認している。状態に変化がある場合はその都度見直している。	利用者一人ひとりが、生きがいや張り合いのある生活を送ることができるにはどうしたらよいか、現在職員間で話し合っていることを介護計画の振り返りとして具体的に記載し共有しながら次のステップに向けて実践することを期待します。また評価についても職員が役割をもち、利用者主体の暮らしを反映した介護計画につながるよう検討をお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事・排泄の状況、日々の様子や本人の言葉など記録しています。申し送りノートを活用して、職員間で情報を共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて、通院などの送迎等、必要な支援は柔軟に対応しています。		

グループホーム 沖

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	往診、訪問理容サービス、傾聴ボランティアの活用など、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、以前からのかかりつけ医での医療となっています。必要に応じて受診の付き添いや、ご家族と同行し、様子や変化を伝えるようにしています。	本人や家族の希望に沿ったかかりつけ医で受診している。ほとんどの場合家族が付き添うが、家族からの依頼があれば職員が受診支援をすることもある。本人の体調変化や緊急時など、必要があれば医師に書面で状況を伝え適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、協力医の看護師と連携しています。時間外でも電話対応などから相談、助言を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、ご家族と情報交換につとめ、なるべく早く退院出来るようアプローチしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、希望にそった支援が出来るようにしていく予定です。	契約書に「看取りに関する指針」が記載されており、ホームの体制が整い、利用者本人と家族等の希望により看取り支援を検討する旨が説明されている。法人の宅老所で看取り支援を経験している職員がおり、職員全員がホームの方針を理解し利用者や家族の希望に沿った支援に取り組む意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備え、個別ファイルにマニュアルを整備しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て、避難訓練を行っています。	今年度春、火災想定のお知らせ連絡、避難・誘導訓練を実施しており、次回は消防署にも立ち会っていただく予定である。日頃から火災予防に重点をおき職員間で確認し合い、初期対応についての手順も事務所の緊急通報装置脇に掲示されている。食料品、衛生材料等の備蓄もある。今後、夜間想定訓練など有事に備えての体制を更に検討していく意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切に、さりげない声掛けや、自己決定できる場面を作っています。また自己決定しやすい言葉掛けをするように努めています。	一人ひとりの意向や希望を大切に考え支援している。本人や家族に希望を聞きながら名前に「さん」をつけて呼んでいる。個人情報の取り扱いについては重要事項説明書別紙で詳しく説明しており、適正管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせて声を掛け、自己決定出来る場面をつくっています。(食べたいもの、する・しない等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間を決めず、一人ひとりの生活リズムを尊重しています。利用者さんのペースに合わせたケアを心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理容、訪問理容で、希望に合わせたカットや毛染めをしてもらっています。寝癖や目やになどないよう心掛けて支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に摂ってきた畑の野菜を下ごしらえしたり、献立に出来るだけ利用者さんの希望を反映するようにしています。	献立はその日の職員が考え、利用者に合わせて食形態に調理し(刻む、とろみをつける等)食べやすいよう支援している。利用者は野菜の皮むき、ハンバーグやコロッケの成型などを職員と一緒にやっている。誕生日はその対象利用者の希望献立にし、揚げ物や寿司など日頃と違うメニューを楽しんでいる。家人と外食に出かける利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり、またその日の体調に合わせて、食事形態をかえ、食べやすいように工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行い、清潔保持を心掛けています。		

グループホーム 沖

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の利用など、排泄パターンの把握につとめ、トイレでできるよう声掛け・トイレ誘導をおこなっています。一人ひとりに合わせたパット類を使用しています。	日中はトイレでの排泄を支援し、一人ひとりの希望や習慣に沿って声掛けやトイレ誘導を行っている。入居してから生活が落ち着き排泄の失敗がなくなり自立できた利用者や夜間居室でポータブルトイレを用いたことにより夜間の排泄が自立した利用者などがいる。ホームでは自立支援の視点からケアが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、必要に応じて下剤でコントロールしています。水分摂取の難しい方には、手作りゼリーなど提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	しょうぶ・柚など浮かべ、季節を楽しむようにしています。体調、希望に添った支援を心掛けています。	利用者の希望やその日の心身の状況に合わせて週2~3回入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者には気持ちに沿った声掛けを工夫し入浴につなげるようにしている。浴室は床暖房で手すりが要所所に設置され、シャワーチェアなども置かれ、利用者の身体機能を活かした入浴支援をしている。家族と近くの公共温泉に行く利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを個別ファイルに整理し、職員が内容を把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできるような仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換やストレス発散になるよう、ドライブなどへ外出できるよう支援しています。	天候などをみながら日常的にホーム周辺の散歩やドライブに出かけている。馴染みの店や実家に立ち寄ってくる利用者もいる。利用者は新聞広告を見ながら近くの店や薬局に個別で買い物に行くことが多く、家族や職員が同行している。天気が良い日はベランダで日向ぼっこをしながらお茶を飲むなど、気分転換をしている。	

グループホーム 沖

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などでお金を使えるよう支援していく予定です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者さんの希望に応じて電話できるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の換気や空調の管理等、照明の明るさなどに気を配り、季節感のある飾り付けをするなど心掛けています。	玄関を入ると居間兼食堂のフロアがあり事務所も区切りがなく利用者も自由に移動している。窓からは周囲の山々や畑が眺められ風通しも良く、静かでゆったりした雰囲気である。フロアの一角にはソファが置かれ、写真や飾り付けは利用者の安全に配慮して目線より上に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、自由にくつろげるスペースがあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく馴染みの物を持ち込んで、居心地良く過ごせるように工夫しています。持ち込みの少ない方の居室は、温かさがあるよう工夫していく予定です。	各居室にエアコンと押し入れが備え付けられており、床はカーペットが敷かれ好みや身体状況に合わせてベットか布団を使用し家庭的な印象である。出窓に蘭の花、お孫さんや家族の写真などを置いている利用者があり、自宅で使い慣れたタンスを持ち込み使用している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく障害物を置かないようにし、状況に合わせて環境整備に努めています。利用者さんの能力に応じてスタッフと一緒にできることをしていただいています。		